

三島小学校で河川環境学習を開催しました。

三島小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成24年6月26日（火）9：35～11：00

場 所：三島小学校 理科室

参加者：三島小学校 4年生 22名

徳島県 河川振興課 3名

徳島県 西部総合県民局（美馬庁舎） 2名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み

2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、CODパケットテスト）

感 想：バーベキューなどに行っても、ジュースやタレを捨てないようにしたい。ジュースが意外にCODが高いことがわかった。人間が川を汚していることが分かりました。もっと川をきれいにしていきたい。

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（CODパケットテスト、透視度測定）

はじめに、身近な河川である明連川に行き、実験に使用する明連川の水を採水しました。次に、明連川の水と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、水道水に比べ、明連川の水は透視度が低いことがわかりました。COD（化学的酸素要求量）をパケットテストにより測定しました。明連川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、明連川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも10～100mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

